

研究テーマ：どうすれば英語に意欲的に取り組めるのか

所属 東津野村立東津野中学校
氏名 野村 晃正
RG JH3

1. 研究の背景

研修当初は3年生を中心に考えていたが、あまり英語の授業に対して積極的に取り組めない2年生を研究対象に変更した。東津野中学校は週3日ALTと授業を行っている。2年生はALTと2時間、連携教育の関係で高校の先生と2時間一緒に授業をする。リスニングの力は他校に比べると高いと思うが、授業に対して主体的に学習する生徒は少ない。また、話すのが恥ずかしいとか間違えることが嫌だと思っている生徒が多く、どうしたらいいかと考えていた。そこでリサーチクエスションを使っ

2. リサーチクエスション

どうすれば英語に意欲的に取り組めるのか

3. 予備調査

英語力のデータ

2年(32人)実力テスト(4月実施)平均点42.6点 80点以上 0人 30点以下 7人

生徒の自己評価 (5 good bad 1)

1. 授業に対して、自ら進んで取り組んだ。

5 2人 4 6人 3 20人 2 3人 1 2人

2. 新しく分かったことやできるようになったことがあった。

5 2人 4 9人 3 13人 2 8人 1 1人

3. 先生の説明や例がわかりやすかった。

5 1人 4 7人 3 10人 2 11人 1 4人

4. 仮説の設定

意欲的に取り組めるようにするため、授業の中で次のような指導を行う。

仮説1：休み明けや週の最初の時間に、ウォーミングアップとして身近な事について質疑応答を行う。

仮説2：授業で習ったことをできるだけ日常的な場面を想定してALTとの会話で自己表現につなげる。

仮説3：自己表現活動につなげるために、英語劇を取り組ませ自分の英語力に自信をもたすことができる。

5. 計画の実践

(1) 週明けの最初の時間に休み中のことについて質疑応答を行った。

(2) 新出単語や文法を使って、ジェスチャーゲーム等を行った。

(3) 2学期の終わりに英語劇(Chris and the Puppets)を行った。

6. 実践の結果

仮説1

生徒に少しでも英語に対して意欲的に取り組ませるために、週明けの最初の時間に5分くらい1ヶ月で全員終了するように実施した。最初の2ヶ月はなかなか上手いかず簡単な質問でさえも答えることができず、また答えることができる生徒も小さい声で発表し、こちらが聞き取れないことがしばしばあった。しかし、10月末の中間テスト後、女子を中心にきちんとした質疑応答ができるようになってきた。男子も文で答えられるのは少ないが、それでも内容は理解できるようになった。生徒は、この活動で表現方法を覚え、それを使えるようになりつつある。少しは意欲的に取り組めるきっかけになったようである。

仮説2

文法定着をしていくために、授業ででてきた単語等をできるだけ身近な場面の中で使えるように心がけた。2年生の2学期は接続詞や動名詞を習うため、教師や生徒が前でジェスチャーを行い、それを答えるゲームも試みた。また、ALTとの会話も行ったがあまりこちらが思っていたような表現活動はできなかったように思えた。

仮説3

期末テストの前後から英語劇に取り組ませた。最初は声も全体的に小さく、覚えようとする意識もなく困っていたが、ALTに各グループごとに発音、ジェスチャー等を指導してもらった。また、少し覚えたことでもほめてやり、それがまた次の文を覚えることにつながっていった。参観日に発表した、生徒はもちろん保護者にも好評だった。

7. 結果の検証

9月に行った実力テストは

平均点42.8(4月実施 42.6)

多少は上がったが、逆に30点以下が7人から11人に増えた。これでは、3年生になって進路に困ると思って、リサーチクエスチョンを行った。

取り組みをしていく中で

中間テスト(10月実施)

平均点49.0 80点以上 1人 30点以下 6人

期末テスト(12月実施)

平均点69.5 80点以上 12人 30点以下 1人

という結果になった。内容が異なる点はあるが、少しずつ生徒の中に意欲的に取り組みだしたという感じがし始めた。

また、生徒の自己評価も

1. 授業に対して自ら進んで取り組んだ。

5	8人	4	14人	3	8人	2	0人	1	1人
(7月実施)	2人		6人		20人		3人		2人

2. 新しく分かったことやできるようになったことがあった。

5	11人	4	14人	3	5人	2	1人	1	0人
(7月実施)	2人		9人		13人		8人		1人

3. 先生の説明や例がわかりやすかった。

5	5人	4	11人	3	13人	2	2人	1	0人
(7月実施)	1人		7人		10人		11人		4人

というように仮説を設定し、それを実践していくうちに自ら意欲的になってきたように思える。

英語劇の感想も

「覚えたりするのが大変だったけど楽しかった」

「みんなで劇ができてよかった」

「練習の時できなかったところが本番でできた」

など自分たちの頑張りを評価する内容が多かった。

8. 成果と今後の課題

成果) 生徒の英語の授業に対する取り組みが変わってきたように思える。今まで女子の1部だけが発表していたが、男女問わず活発に発言するようになった。また休み時間などに気軽にALTと話しかける生徒も出始めた。

課題) 意欲的に取り組めるようになったが、生徒の英語に対する意識調査は7月に実施した時とはそれほど変化はない。自分の準備不足や実践が中途半端に終わってしまった時もあり、まだまだ本当に生徒に成果がでたとはいえない。今後も引き続き、生徒とともに取り組んでいきたいと思っている。